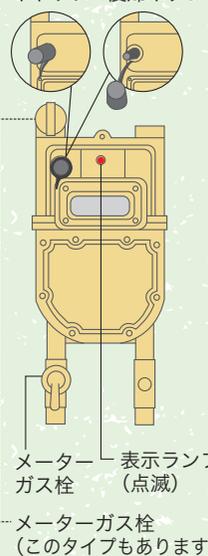


あれっ!?ガスが出ない! / そんなときは... ガスメーターをご確認ください

- ガスメーター(マイコンメーター)は、ガス漏れや震度5相当以上の地震を感知した場合等に、自動的にガスを止め、ガスメーターの表示ランプが赤く点滅します。
- ガス漏れの疑いもありますので、ガス臭くないか十分確認してください。
- ガス臭い場合は、ガス事業者へご連絡ください。
- ガス臭くない場合は、以下の手順に従って操作いただければ、ガスの供給を再開できます。

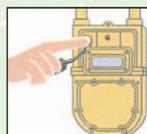
キャップ 復帰ボタン



1 ガスコンロ・暖房・お湯すべてのガス機器を止める。
(ガスメーターの元栓(メーターガス栓)では止めない)



2 メーターガス栓が開いていることを確認してください。復帰ボタンのキャップを左に回して外す。
(キャップが無いタイプもあります。)



3 復帰ボタンを奥までしっかり押して、すぐ手を離す。
(ボタンは元に戻り、赤ランプは再び点滅。)(キャップを元に戻す。)



4 ガスを使わず(お湯も出さないでください)、約3分待つ。(ガスメーターがガス漏れがないかどうかを確認しています。)3分経過後に再度ガスメーターの表示ランプを確認し、点滅が消えていればガスが使えます。

マイコンメーターは、次のような場合にガスをシャ断します(赤ランプが点滅します)

- 地震 ●多量のガス漏れ ●ガスの圧力低下
- 機器の長時間使用(お湯の沸かしすぎや鍋が焦げるのを防止するものではありません。)

※3分経過後もガスが止まったままで赤ランプが点滅している場合は、ガス機器の止め忘れやガス漏れが考えられますので、もう一度ガス栓の閉め忘れやガス機器の止め忘れがないか確認してください。

※確認後に再度操作しても復帰しない場合は、ガス漏れの疑いがありますので、ガス事業者までご連絡ください。

普段からメーターの位置を確認してください



マンション・アパートの場合



一戸建ての場合

冬のお風呂に気をつけて!



この時期よく耳にするヒートショックとは「温度の急な変化が体に与えるショック」のこと。気温差の激しい場所を何度も行き来することで、血圧が頻繁に上がったたり下がったりを繰り返し、こうした急激な血圧の変化が脳卒中や心筋梗塞につながると考えられます。

日本家屋は特に暖房の効いた居室とトイレやお風呂の気温差が大きく寒さが厳しいこの季節、入浴時の事故にはヒートショックが深く関係しているといわれます。熱いお湯で温まりたいところですが、42℃以上のお湯は心臓に負担をかけることにもつながります。

冬のお風呂では次の3点に気をつけましょう

1

浴室は事前に暖める(浴槽の蓋をあけておく、熱めのシャワーで浴槽に湯をおとすなど)

2

脱衣所も暖房などで暖かくしておく

3

お風呂のお湯はぬるめ(41℃くらいまで)に設定

さらに

浴室暖房乾燥機

浴室をガス温水式ならではのパワーでポカポカ快適に

我が家の
お風呂は
いつもあったか



入浴前に浴室暖房のスイッチON



あったか浴室で快適入浴



入浴前後の脱衣室もポカポカ

寒い浴室と熱いお湯の温度差は体に大きな負担をかけます。そこで浴室を温めておくと安心です。浴室の扉も開放すれば脱衣室までポカポカ。浴室を乾燥室に変えてしまう乾燥機能もついています。

詳しくは新発田ガスへお問い合わせください。